

日本郵便の父

まえじま ひそか
前島 密

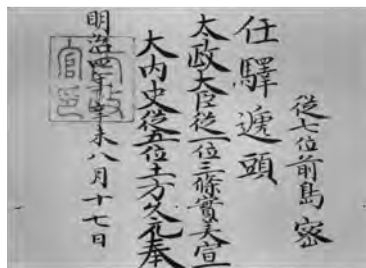


前島 密(1835~1919)は幕末に生き、明治の新しい政府作りに加わって、数多くの業績を残しています。中でも郵便事業を形成した功績は大きく、明治3(1870)年に「郵便創業」に関する案を省議に提出しました。これを基として、明治4(1871)年に郵便の取扱いが開始されました。以後、郵政の長官として郵政事業の基礎を築きました。そのため、前島 密は「日本郵便の父」と呼ばれています。



前島 密は天保6(1835)年1月7日、越後国頸城郡津有村下池部(現在の新潟県上越市下池部)に生まれました。若い頃から大変な勉強家で、江戸で医学を、長崎で数学や英語などを学びました。

通信にも深い関心を持ち、明治3(1870)年駅逋権正(租税権正兼任)を命ぜられた後、郵便創業に関する建議書を提出しました。その後まもなくしてイギリスに渡航しますが、翌年帰国するやいなや、自ら志願して駅逋頭(郵政の長官にあたる)となり、明治14(1881)年に退官するまでの間に、官営による郵便の基礎を築きました。



明治4年 駅逋頭辞令

前島 密の業績

- 慶応2(1866)年 漢字廃止の儀を將軍徳川慶喜に提出する。
- 明治元(1868)年 江戸遷都を大久保利通に建言する。
- 明治3(1870)年 鉄道開設のための収支計算書「鉄道憶測」を作成する。
駅逋権正(租税権正兼任)となり郵便事業開始を発案する。
イギリスに渡り郵便事業を学ぶ。
- 明治4(1871)年 郵便創業。
帰国し駅逋頭となる。退官するまでに郵政事業の基礎を築く。
新聞低料送達の条文を規則に加え、翌年には郵便報知新聞の刊行に関与する。
- 明治5(1872)年 陸運元会社(現日本通運株式会社)の設立を助ける。
- 明治8(1875)年 郵便為替、郵便貯金の取扱い開始。生命保険、養老年金の構想も持つ。
- 明治9(1876)年 訓盲院設立に尽力。翌年、訓盲院役員になる。
- 明治10(1877)年 第1回内国勸業博覧会審査官長となる。
- 明治13(1880)年 日本海員掖済会発足に尽力。
- 明治15(1882)年 東京専門学校(早稲田大学の前身)創立。前島は創立に参画した。
- 明治20(1887)年 東京専門学校の校長になる。
関西鉄道会社社長、後に東京馬車鉄道会社監査役、北越鉄道会社社長等を歴任する。
- 明治21(1888)年 通信次官に任命され、明治24年に免ぜられるまで、
官営による電話交換業務の開始等で活躍する。

